

中学校技術・家庭 家庭分野における衣生活文化の題材開発

— 浴衣の着装体験による効果の検証 —

藤井 志保 村上かおり 一色 玲子 谷原 千代

1. はじめに

平成20年3月の学習指導要領の告示に至る同年1月の中央教育審議会答申では、教育内容に関する主な改善事項として「伝統や文化に関する教育の充実」が挙げられた¹⁾。そのことを受けて、平成24年度から実施される中学校新学習指導要領技術・家庭、家庭分野では、浴衣など和服について調べたり着用したりするなどして、和服と洋服の構成や着方の違いに気付かせたり、衣文化に関心をもたせたりするなど、和服の基本的な着装を扱うことが有効な手だてとなり得ることが述べられている²⁾。

答申¹⁾に示された「生活文化」とは、我々の生活における歴史的・文化的価値をもった行為や形式を意味している。家庭科は家庭生活を主な学習対象としている。その家庭生活は、家族、地域の人々、衣食住生活に関わる消費財、生活時間及び金銭などの要素が関わり合ってつくられており、その中で生活行為が生み出され機能しているものである。そして、その時間の流れの中で生活行為の積み重ねの過程に生活文化が生まれ、新たな生活文化が創造されていく。従って、子どもたちがこの文化的価値を感じ取るためには、普段見過ごしてしまいがちな生活事象や行為をていねいに見つめたり、体験したりすることが必要である。また、生活文化を創造できる基礎的・基本的な資質・能力を育むためには、その価値を体得する生活体験とともに、それに基づく意味ある認知活動が求められる。すなわち、生活事象を表面的にとらえるだけでなく、衣食住の生活の営みを見つめ、自分の価値観をとらえ直すことができるような実践的・体験的な学びの工夫が必要であろう。

現在、日本の民族衣装である和服を日常着として着る人は少ない。生活様式の変化や活動性の問題など、様々な理由が考えられるが、和服は目に見える伝統文化であり、世界に誇れる我が国独自の文化でもある。

その中でも生徒に最も身近な浴衣は、近年、和服の中でも需要が高まっている。しかし、着装や着付けが適切ではなかったり、外出先で着くずれをおこしたりする姿も見受けられ、和服の伝統的意義や美的感覚が伝承されているとは言い難い。

中学校家庭分野の「C 衣生活・住生活と自立」では、衣生活に関連して、衣服の働き、着装、構成、選択、材料、手入れ、製作等について学習する。それらの内容について「製作」を通して学習することが効果的ではあるが、授業時間の制約が大きい。一人ひとりの生徒が自分の衣生活の背景にある文化について振り返り主体的に学習するためには、その制約の中で有効な方法を検討する必要がある。

これまでの研究において、日常生活の着装行動に対する評価活動を取り入れた結果、生徒自身が個々の衣生活を多面的にとらえ、衣服や着装に対する関心が高まることが明らかとなった³⁾⁴⁾。また、和服の着装についての調べ学習と甚平製作を行い、それらが衣生活文化の題材として有意義であることが示唆された⁵⁾。このように、製作などの実習や、実験、観察、見学、調査などの実践的・体験的な学習活動を通して学ぶということは、理論や考え方への学習に終始せず、直接的に具体的に教材と対峙する場をもち、自分の生活知をとらえ直す実感的な学びにつながる効果をもっている。

そこで本研究では、浴衣の着装体験を通して、和服と洋服の違いや近年の衣生活の変化を理解し、衣生活を豊かにするための工夫ができるような衣生活文化の題材開発を行い、その効果を検証することを目的とする。

2. 授業の視点と指導計画

本研究における浴衣の着装体験授業は、9年生(中学3年生)の衣服製作授業の流れのなかで行った。

新学習指導要領では、「身近な衣服の材料である布

を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができること。」とあり、布を用いた製作実習が必修項目になった。製作実習はものづくりの楽しさや達成感を体感できることに加え、自ら着用できる衣服を製作することによって、衣服の構成を体験的に理解することができると考えられる。これまでの実習では生徒たちの体験的理解を深めさせるために、彼らの意向をできるだけ反映できるような製作題材を決定してきた。具体的には、9年生の衣服製作実習にあたり、8年生（中学2年生）の終わりに、これまでの9年生の生徒たちが課題を完成させた時の写真などを示し、数種類の題材から希望の多い題材を選べるようにした。その際には、「自分で着用できるものを自分で作り、それをみんなで着用し完成の喜びを味わえるものを選びたい」という意識付けを行い、既製の多い現在の衣生活の中で自分の衣生活を見直す機会になるよう、衣服製作を実施することとした。

はんでんも候補に挙げたが、希望を聞いた結果、平成23年度はショートパンツの製作を行うことになった。ショートパンツの製作活動においては、本研究における浴衣の着装体験授業を含む①～⑩のような活動を取り入れ、衣生活をより豊かにするための実践的な学習ができるようにした。

①裁断後の余った布で、10cm四方の布を用意し、その布の中を螺旋状に縫う「ぐるぐるコースター」を製作させた。その製作学習過程においてミシンの使い方を反復学習し、理解を定着させた。

②夏期休暇中に、お気に入りの衣服をデザインする課題に取り組ませた。課題はイラストによる表現を取り入れ、自分に似合う色や、個性を生かした着装の工夫についても考えさせた。イラストは掲示して生徒間の交流を深めた。

③パーソナルカラー(自分に似合う色)探しをカラー布を使って、グループ活動として行った。

④衣服の取り扱い絵表示の調べ学習を行い、衣服の選択に関わる課題に取り組ませた。

⑤「くらしをみつめて」という生活に関係した新聞記事の切り抜きを家庭での課題として年間通じて行った。(この中には衣生活に関する記事もある)

⑥ショートパンツの製作活動において、和服の構成についても触れながら、和服と洋服の構成の違いを理解させた。

ショートパンツの製作段階において、ポケットつけが終了し、また上そしてまた下を縫う段階に入るときに、構成の違いに気付くような働きかけをした。すなわち、それまでは平面的に布を置いて縫っていたが、その作業がしにくくなったことに触れることによっ

て、今度は立体的に縫わなければならないことを体験的に実感させるようにした。そして生徒たちには改めてショートパンツの構成は、平面の布を人間の体の形に合わせて立体的に縫い合わせてできていることを認識させるようにした。そして日常生活において毎日着用している洋服の構成について再確認した。

⑦和服に関する意識調査を行い、日常生活における和服との関わりについて振り返りをさせた。

その結果については、次項で述べるが、この頃の日々の生活記録にも、「今度家庭科で和服について学ぶそうです。着物っていいですね。和服の小物など見るとかわいくて落ち着きます。とても和服の学習が楽しみです。」と書いていた生徒がいた。

また女子は被服室に並べた浴衣のところへ行って、「この柄がいい。いやこっちだ。」などと話をし、着装体験授業を心待ちにしているようで、関心の高い様子がうかがえた。

⑧⑥⑦の活動を通じて、和服と洋服すなわち平面構成と立体構成の違いを考えるよう意識づけを行った。

⑨和服(浴衣)の着装体験授業を行った。

⑩ショートパンツ完成後は、ファッションショー(発表会)を行う。実際に製作した衣服を着装した姿の、自己ならびに他者による評価活動から、自分らしい着装について考えさせるようにした。

以上のように立体構成であるショートパンツの製作活動を行いながら、和服と洋服の構成や着装方法の違いを考えさせること、衣文化に関心をもたせることを取り入れた学習を行う指導計画を立てた。

「着用」できる衣服を作るという体験は、手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な技術を習得させるだけでなく、前述したように自分の衣生活全体を見直す貴重な機会になると考えられる。人間が身にまとう立体的な衣服が、一枚の布から出来上がるまでの製作過程を実践的かつ体験的に理解することによってこそ、ものを作るという成就感を得ることができると思われる。その結果、衣服に限らず生活の中で使うすべてのものの価値を理解し、それらを大切にすること、それらの作り手に対する感謝の気持ちが芽生えるのではないかと考えられる。

またこのような製作活動では、これまでも生徒同士がわからないところを教え合い、問題解決しながら作品を完成させるというコミュニケーション活動が多く見られている。ものづくりの喜びを共に味わう過程において、「人と人とのかわり」がとても重要であることを体験的に実感させる交流ができていると考えられる。またショートパンツ完成の時期が、ちょうど受験期であり義務教育の最後の授業時期にもあたる。

そのような背景から、衣服製作活動、浴衣の着体験、ファッションショーによる表現評価活動が生徒たちそれぞれの生活そのものを振り返ることとなり、精神的な活力になることも授業の視点に加えた。

このような授業を通じて、一人ひとりの生徒が自分の衣生活の背景にある生活文化について、主体的に学習する力を養うことを目標とし、指導を行った。

3. 和服の着体験授業の実際

日時 平成23年12月21日(水) 3時間目 (9年1組)
5時間目 (9年2組)

対象 広島大学附属三原中学校9年1組 (41名)
9年2組 (40名)

授業者 藤井志保

本時の題材名

和服(浴衣)を着てみよう～見て、触れて、着て、考えよう～

本時の目標

- 日本の民族衣装である和服(浴衣)に触れ、和服への興味・関心を高める。

- 着装を通じて、伝統的な和服の特徴やその良さを体験的に知る。

- 和服をお互いに着つけ合う活動の中で、仲間とコミュニケーションをとりながら、衣服や人に関して新たな価値を発見できる。

- 和服と洋服を比較する視点を投げかけて、その構成をはじめさまざまな違いについて考えることができる。

着体験授業の直前回の授業では、今回は和服(浴衣)を着装してみることを伝え、洋服とどのように違うのかなど、着てみて考えるので楽しみにしておこうと伝えた。

また既に授業に用いる浴衣を、生徒たちが目に入るテーブルに広げていたので、それを見た生徒は、「あ～これかわいい」「これが着てみたい」「この色〇〇君に似合いそう」などと次回の着装の様子を想像しながら話をしていた。着装の時の班編制も伝え、体操服でのぞむようにさせた。家に、帯板がある人は持つてくるように伝えた。

着体験授業の日の授業は、通常授業を行っている教室の約2倍の広さの教室で行った。当日の朝、各クラスの家庭科係が早く来て、長机と浴衣を並べる準備をしてくれた。生徒たちは、半そで半ズボンの体操に着替え、早めその教室へ入ってきた。机の上に並んでいる浴衣を見て、まず「柄」を見比べながら、前回の授業時と同様、これが好みだとかあの色は〇〇さんに似合いそうだなど話していた。

浴衣は、クラスで10着(男物5着、女物5着)用意した。それぞれに帯・下駄、着付け用の腰紐(男子に各1本、女子に各2本)を用意した。

男女別で4人1組のグループを作り、お互いに協力して着付けをすることとした。

はじめにワークシート(図1)を配布し、今日の授業の目的を伝えた。

浴衣を着てみよう!～見て、触れて、着て、考えよう～

1. 浴衣を着てみて、洋服とどんなところが違うか比べてみよう

	和服(浴衣)	洋服(制服のシャツ)
着る時	(簡単・難しい) 理由: <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block; font-size: x-small;">あてはまる方に○をつけよう</div>	・ボタンがあるので着脱が簡単
着た時	(うまく着られた・うまく着られなかった) 理由: (着心地がよい・着心地が悪い) 理由: 見た目 ・浴衣: ・帯: ・その他: サイズ	・ボタンがあるので着脱が簡単 サイズ ・体型に合わせたサイズがある(S.M.L.L.L)
製作時	◎浴衣を観察し、製作するとしたらどのような縫い方をするだろうか? どんなことでもいいので気が付いた事を書こう。	・ミシンを使って製作する。 ・そでやえりの部分に曲線(カーブ)がある。(みんなが製作しているハーフパンツのまた下の線の形は?)
着た後		・洗濯機で簡単に洗濯できる ・ハンガーにつるして形を整える ・ハンガーに掛けて収納する

2. 機会があれば、浴衣(和服)を着てみたいと思いますか? (はい・いいえ)
なぜそう思いましたか? ()

3. 浴衣の着装を通して感じたこと、気づいたことなど、授業の感想を書いてください。

9年()組()番 名前()

図1 ワークシート

今日の授業は、みんなで日本の伝統的な衣装である和服の浴衣を見て、触れて、着て、考える授業であり、ただ着るだけではなく、浴衣はどんな形の布をどのように縫い合わせてあるか、どのようにして着るのか、洋服では使わない紐や帯の使い方はどのようにするのか、そして、着たときの着心地はどうか、仲間の姿からもどんな印象を受けるかなど、しっかり考えながら体験するように話した。

またショートパンツの製作活動とも関連付け、製作している洋服や毎日着ている制服のカッターやブラウスと浴衣を比較して考えるように指示し、ワークシートに記入するようにさせた。

また事前の和服に関する意識調査の結果については、資料(図2)を提示して説明した。

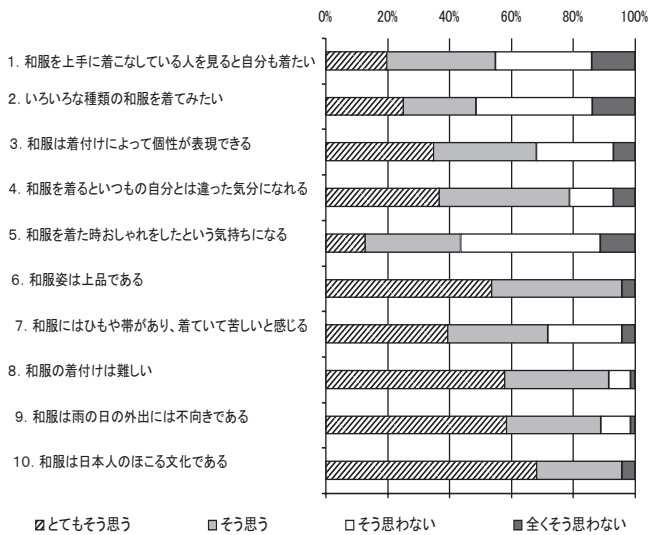


図2 着装体験授業前の和服に対する意識

「和服は日本の誇る文化であり上品である」(96%), 「和服を着るといつもの自分とは違った気分になれる」(78%) といった着装状態では正のイメージがあることを、その一方で、「着るのは難しそう」(90%), 「雨の日など不向き」(89%), 「着ていて苦しそう」(71%) など着装行動では負のイメージがあることを伝えた。また49%の人が、「いろいろな種類の和服を着てみたい」と興味関心があることにもふれた。

そして現在の日常生活では、残念ながら和服を着る機会も少なく、日本の誇る文化であると思っけても和服についての理解は乏しく、海外の人たちに説明することさえも難しいということ話をした。そのような背景から、この今日の浴衣の着装体験授業では、和服と洋服について、いろいろと考えながら理解しようと働きかけた。

まずモデルになってくれる生徒(男子1名、女子1名)に前に出してもらい、その生徒に着付けをしながら着付け方について大まかな説明をした。生徒たちが持っている資料集(「新技術・家庭科総合資料」p.50, p.60~61(正進社))と教科書も参考にするように指示をした。

着付け中に生徒が戸惑っていたところは、帯であった。女子はクラスに数人自分で帯を結べる生徒がいたので、その生徒たちが自発的に他の生徒たちに教えてくれた。男子は腰骨で腰ひもや帯を結ぶところが難しかったようで、試行錯誤しながら取り組んでいた。(資料1)

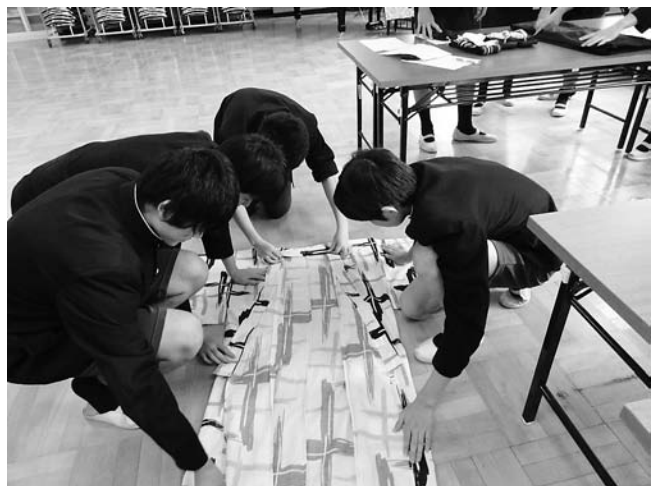
着付けをしていくと、生徒たちは次第に生き生きした表情になっていった。またきちんと着付けられるように声をかけ合い、互いに着装感を伝え合ったり、着



資料1 帯を結んでいる男子生徒たち



資料2 着装後の女子生徒たち



資料3 衿の形を見ている男子生徒たち

装状態を評価し合い、写真と一緒に撮ったりした。(資料2)

最後に浴衣のたたみ方を示しながら、縫う前のすべてのパーツが長方形であり、縫合線は直線だけであること、たたんだ状態は平面で長方形になることなどを伝えた。その上で、人体の形に合わせ、曲線を縫い合

わせて作る洋服との違いを確認させた。資料3のように生徒たちは、衿や身頃など、各パーツを見ながら、和服の特徴を理解しようとしていた。

4. 着体験授業を通しての生徒の意識の変容

ワークシートの3に示した浴衣の着体験後の感想を、授業目標や指導の観点と対応させて、表1のような7つのカテゴリーに分類し、キーワード及び記述例とともに記した。

「1. 日本の伝統的な衣文化の理解・実感的理解」は、着物を日常着として着用していた時代の日本人の立場になって考えたもの、日本らしさや日本の良さといった日本の伝統的な文化を受け継いでいくという気持ちになったなどの記述がみられた。このことについて、記述している生徒は24人であったが、記述例からもわかるように表現方法は最も多種多様であった。生徒一

人ひとりの有している文化的な背景が異なっていることが、このような表現性の違いに表れたのではないかと考えられる。

「2. 洋服との比較」では、着る時間や手間、日頃の印象との違いなど、洋服と和服の比較から気が付いたことがあげられていた。

「3. 和服の構成・着方の特徴」についての記述は36人と最も多く、主に和服を着るのは難しいという内容だった。着る、たたむという過程を通じて、和服の構成や着方についての気付きがみられた。

「4. 浴衣の着心地」に関するコメントは、浴衣の通気性や涼しさ、着装時の歩き方など、着装し日常動作を通して感じたことがあげられていた。

「5. 浴衣着装時の自分自身、他者の印象」は、浴衣を着た自分に対する自己評価、ならびに浴衣を着装した友人たちに対する他者評価として書かれていた。

表1 授業後の感想の分類

No.	カテゴリー	キーワード	人数	記述例
1	日本の伝統的な衣文化の理解・実感的理解	昔の人、先人の知恵、日本らしさ、日本のよさ、日本の文化、日本の服、神聖だ、武士	24	<ul style="list-style-type: none"> 先人の知恵を思い知った。 昔はこの浴衣を着て生活していたんだと感じると自分に昔にタイムスリップしたみたいだった。 昔の日本人から考えて、一つの布から色々作れてすごいと思います。 日本の大切な文化で、重くて神聖なものだと思っていたけど着てみると身近に感じられたし、また着てみたいと思いました。 昔の人は結構良いものを着ていたのだと思った。 浴衣を実際に着てみて日本の文化を改めて知ることが出来たと思います。 日本の文化を肌で感じる事が出来ました。 日本の昔ながらの文化としてこれからも受け継いでいくべきものだった。 日本の服をちゃんと着こなせるようになりたいと思いました。 昔の武士はこんなのを着て動いていたのがすごいと思いました。
2	洋服との比較	着るのに時間がかかる・大変、洋服の方が楽、洋服の方が好き、洋服より上品・おとなっぽい、洋服と違う良さがある	20	<ul style="list-style-type: none"> 浴衣を着てみて洋服とまったく似ていないことが分かった。でもどちらにしてもいい点があると思った。 いつもは洋服ばかり着ているけど和服を着てみて、洋服よりも落ち着きや清楚な感じがして、和服の良さが分かりました。 洋服よりも時間がかかると思いました。でもサイズが決まっていなくて長い間着ることが出来るのでいいなと思いました。 いつもみたいにぱっと着てぱっと脱げるわけではない 洋服は簡単に着れて楽だと痛感した。 洋服だとだら～としていたけど、和服だときっちりして着やすかった。
3	和服の構成・着方の特徴	着る順番、着付け、帯の結び方、たたみ方、サイズ、平面の布、一枚の布、一人で着るのは難しい、色柄や小物の組み合わせ	36	<ul style="list-style-type: none"> 浴衣を着てみて着方の決まりがあって難しいと思いました。 形が体に合っていないので着るのが大変でした。一つの行程を丁寧にしないと最後着終わったときしわが寄っていたりよれていたりと、とても不さいくになるので難しかったです。 たたんだ時にほとんど一枚の布から作ってあって無駄が少なそうでエコだと思った。 はじめて浴衣を着て、結び方もあるし、着る順序もあるから、着るのが難しく、浴衣の着方は難しいと感じた。 和服は着るのも着た後も面倒だからあまり着たくないと思った。 一枚の布だから簡単そうに見えるけど実際してみるととても難しい。特に自分のサイズに合わせる事がうまくいかなくて時間がかかってしまった。
4	浴衣の着心地	涼しい、軽い、通気性、動きにくい、苦しい、意外に動きやすい	20	<p><u>涼しい、季節感 (9人)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 帯がかなりきつそうだったけど実際は腰のところだったのでそんなにきつくなかったし前に着たのより涼しくて着心地が良かった。 きれいなものが多く夏などに着ると涼しくて生活しやすそう。 夏だと通気性があってとても涼しいと思う。 <p><u>着装時の所作 (11人)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 大股で歩くのは少ししんどいと思った。 意外に動きやすく感じましたが、着方が悪いとしゃがんだ際に帯が崩れてしまうなと思いました。 あしもとまで浴衣が下りていたので転げないように気をつけたいと思います。
5	浴衣着装時の自分自身、他者の印象	上品、新鮮、華やか、可愛い、おとなっぽい、落ち着き、気分が上がる、美しく見える、イメージが変わる、雰囲気が変わる	24	<p><u>自分自身の印象 (14人)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 洋服とは違う良さがあり和服独特の雰囲気があった。 着ていると普段と違うような雰囲気が出て、気分が変わるのでとても楽しかった。 いつもは洋服ばかり着ているけど和服を着てみて、洋服よりも落ち着きや清楚な感じがして、和服の良さが分かりました。 私はいつもかわいい・恰好をしていなくてゆかたなんていや無理と思っていたけど、着てみたら楽しかったし、かわいい恰好をできてうれしい。 <p><u>他者の印象 (10人)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 浴衣を着ている人を美しく見せることが分かりました。みんなかわいかった。 みんなの普段見れない姿が見れて楽しかったし、みんな可愛いなと思いました。 みんな洋服とはイメージが変わって似合っていました。
6	着体験の機会	貴重な経験だった、授業として楽しい、またやりたい、浴衣に興味をもった	17	<ul style="list-style-type: none"> とてもいい経験になった。生まれて初めての経験になったのでよかったです。 こういう授業は楽しいのでたまにしてみたい。 家で着ることはあまりないのでよかったです。 ふだん着ないものを着るのはいいことだと思う。もう着たくないと思ってもその着る経験のためになると思うから。 人生を通してあまりない機会なので、着てみて自分は和装が似合うのかも気になったけど、着れてとてもうれしかったし、楽しかったです。
7	日常生活での活用	また着てみたい、一人でも着れるようになりたい	31	<ul style="list-style-type: none"> 夏祭りとか着ている人がいたのでそれみたいに着こなしてみたいです。 たまにしか着ることが出来ないけどまた機会があったら着たいと思いました。 何回かやってみて少し一人でもできそうな気がしてきた。今度一人でやってみたい。 思ったより着物は簡単に着れたので普段でも着れたら楽だった。風呂に入った後着たいです。

パーソナルカラー探しによる評価活動と同様に、自己と他者による分析を通じた有効な評価活動が行われている様子がうかがえた。

「6. 着装体験の機会」は、浴衣着装の機会があり良かったというものが多く、さらに「7. 日常生活での活用」では、夏祭りの時に浴衣を着てみたいなど、自分自身の衣生活を振り返る内容の記述が見られた。

またワークシート2の項目では、今後、機会があれば和服を着てみたいかという問いを設けた。それに対し、74%が「着てみたい」と答え、着装体験授業前の49%から著しく上昇したことが明らかとなった。着方が難しいと感じた生徒が多かったにもかかわらず、今回の経験を普段の衣生活に取り入れたいという意識が非常に高くなったことが明らかになった。

5. まとめと今後の課題

浴衣の着装体験を通じて、和服と洋服の違いや衣生活の歴史と現状を実感的に理解し、そのことによって衣生活文化に対する意識に変容がみられることが明らかとなった。

特にこの着装体験授業では、ショートパンツの製作活動との関連付けを行ったことが、生徒たちの意識の変容に効果的であったと考えられる。ショートパンツの製作により、生徒たちは立体構成と平面構成の違いを、自発的に比較し、導き出した。このことはそれぞれの特徴を個別に考えるよりも理解しやすいと考えられ、その結果実感的な理解が深まり、表1に示すような多くの記述が得られたと考えられる。

また浴衣の着装時の印象は、日常生活での洋服着装時の印象と大きく異なり、多くの生徒たちが印象に対する評価活動を行っていた。これまでの我々の研究において、自己と他者による分析による評価活動が、着装学習の方法として、実践的能力の習得に有効であることを明らかにした³⁾。今回のように日常生活とは異なる着装体験をすることによって、自己の反応と刺激および他者による反応と刺激がさらに高まったと考えられ、着装学習における体験を通じた認知活動の重要性が示唆された。

以上のように、浴衣の着装体験を通して体験的に洋服と和服の違いを理解することは、近年の日本の衣文

化の変化の理解を深めるだけでなく、衣生活を豊かにするための工夫ができる能力の育成にも有効であると考えられる。

授業時間の制約が大きい中で、一人ひとりの生徒が自分の衣生活の背景にある文化について振り返り、主体的に学習するための方法として、このような体験的理解が深められる題材を取り入れることが望ましい。

今後の課題として、製作活動と着装体験によって得た刺激と、自分の生活知をつなげて、とらえなおす場を持たせたい。それによって、衣生活を豊かにするための工夫ができるようになるであろう。今後そのような題材展開を目指していきたい。

またこのような題材を年間の指導計画の中でどのように位置づけることが、生徒の主体的な学習意欲の喚起につながるのかについて、指導計画の検証を行いながら、有効な題材の開発を継続する必要がある。

引用（参考）文献

- 1) 文部科学省：『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）平成20年1月17日』
- 2) 文部科学省：『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』教育図書，2008.9
- 3) 鈴木明子，村上かおり，木下瑞穂，藤井志保，箕島隆，一色玲子：「中学校「技術・家庭」家庭分野における着装学習の指導方法に関する研究—「パーソナルカラー」探しを通じた評価活動の検討—」広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要，第37号，301-306，2009.3
- 4) 村上かおり，鈴木明子，木下瑞穂，藤井志保，林原慎，一色玲子：「中学校「技術・家庭」家庭分野における着装学習の指導方法に関する研究—衣生活の自己・他者分析を通じた評価活動の検討—」広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要，第38号，319-324，2010.3
- 5) 村上かおり，鈴木明子，一色玲子，藤井志保，林原慎：「中学校「技術・家庭」家庭分野における甚平製作を通して考える衣生活文化の題材開発」広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要，第39号，225-230，2011.3